



耕心 ~夢追いかけて~

佐世保市立吉井中学校
学校だより 第43号
文責 校長 川口 貴晴
令和3年1月22日(金)発行

【学校教育目標】自ら生きる力を培う生徒の育成

【めざす学校像】生徒一人ひとりの夢と志を育む学校

【一徳運動】「みそあじ運動(みなり・そうじ・あいさつ・じかん)」



中



今だから読んでほしいこと！

平成21年3月に、「長崎っ子に贈る50の話」という本が発行され、各学校に寄贈されました。その中に、今こそ吉井中の皆さんに読んでほしい文章があったので紹介します。

『レギュラーになれなくても、サッカー部の3年間を人生で生かせ』



サッカー部に入ると、ほとんどの選手はレギュラーポジションを目標にします。しかし、サッカー部で3年間過ごす真の目的は、「人生の勝利者になること」です。私はよく、生徒に言っています。「レギュラーになった、ならないというのは、高校時代の3年間のこと。人生90年のたった3年間です。私たちは、タケノコと一緒に育つ。太陽の光と土の養分を吸収して伸びていき、冬の寒いときは根を長く、太くしていく。高校時代にレギュラーになった人はここで花が咲いたわけだが、残りの人生でも花を咲かせなくてはならない。

たとえレギュラーになれなくても、高校で3年間、サッカー部で練習してきた結果、素晴らしい人生を歩むための根を手に入れることができるのです。養分をたくさん蓄えて根を持って磨いていけば、高校を卒業後にならずに枝が出て、大輪の花を咲かせることができます。高校の部活動でレギュラーにはならなかったけど、卒業してから立派な花を咲かせる人はたくさんいます。

たとえば、2003年の5月に、島商時代の教え子が、突然、東京から電話をかけてきて『先生、どうしてもお会いしたいので、お時間を頂けますか』と言う。『来週の月曜日なら、何とかしよう』と答えたら、東京から長崎までポーンとやってきた。



それまで、年賀状しか寄こさなかった生徒でした。どんな用事かと思ったら『先生、7年前にリサイクルショップを始めました。その時に、1億円売り上げることができたら先生に挨拶しようと思って、コツコツやってきた。今年、ようやく目標が達成

できたので報告に来ました』と言う。これには本当に驚きました。事業は7店舗に拡大して、さらに、新規2店舗を計画中だと言います。

その生徒は、高校時代、サッカーはあまりうまくなく、補欠にも入れなかった。でも、こう言ったのです。『高校時代、本当に苦しい練習をして築いたものが何だったのか。いま、ようやくわかりました』。

3年間、苦しい思いをして練習してきたことは、確実に心と体を鍛えている。絶対、無駄にはなりません。大切なことは目標に挑戦すること。どんなに弱いチームでも、一試合で3回はチャンスがある。人生にも3回チャンスがあるから、自分を磨き続けることです。その時に準備ができていれば、大輪の花が咲きます」

朝礼でも、入学式でも、講演会でも、私はよくこの話をします。

小嶺忠敏先生著(現長崎総合科学大学附属高校
サッカー部監督)

『国見発 サッカーで「人」を育てる』より

これは実話です。なぜならここに登場する生徒は、私の中学校時代のサッカー仲間だからです。

当時から大変な努力家で、部活後も一人で残って夜遅くまで練習していました。こんな選手は今まで見たことがないくらい技術が高く、サッカー部員でさえも憧れの存在でした。人間性もよく、仲間を大切に、同級生とは思えないくらい立派なキャプテンでもありました。当時、高校サッカー界で最強だった島原商業高校に進学し活躍しました。その姿は私たちサッカー仲間の誇りでもありました。

昨年のちょうど今頃(新型コロナ拡大前)、所用で東京に行った際に久々に再会しました。その時も変わらず、社員を大事にする素晴らしい社長さんでした。東日本大震災の際には大型トラックでいの一歩に救援物資を届けたそうです。私も見習うところ大の話ばかりだったので、「その時のための準備」を怠らずに頑張ろうと決意を新たにしました。

生徒の皆さんも、チャンスは誰にでも訪れます。ぜひ「その時のための準備」をしておきましょう！特に3年生は、今がそのチャンスの1つですよ。



新しい「学び」が始まります！



政府の「GIGAスクール構想」を受けて、佐世保市でも「スマート・スクール・SASEBO」推進室が立ち上がり、「GIGAスクール構想」が一気に加速してまいりました。

本校でも、まもなく一人1台ずつの端末(タブレットPC)の配付や保管用のキャビネットの設置がなされ、いよいよ「新たな学び」が始まります。

「スマート・スクール・SASEBO」構想で何をしようとしているのか、何が実現できるようになるのかということを簡単にご説明します。

- ①ICTを使って、生徒の「学びの質」を高め、「子どもの学びを広げ」「子どもが学ぶ喜び」を実現するための方策(道具)の1つにICTが加わる。
- ②一人1台の端末を持たせることで、「多種多様な学びの形」が実現できる。「一人も取り残さない教育の実現」「時間・距離の制約からの解放」「学習状況に応じた内容・進度・支援や配慮の保障」「プロジェクト型学習による主体的で対話的な深い学びの保障」などが実現可能。

以上です。

もう少しわかりやすく説明すると、生徒が、「どこにいても」「どんな時間でも」、もっと多くのことを知りたいと思い自ら調べ学習をしたり、授業後にさらに深く学びたいと思い家庭で難問にチャレンジしたり、級友の考えや意見を共有したり、登校できない事態が発生しても学ぶ機会が保障されたりするということです。

私たちも、より有効にタブレットPCが活用できるように、日々研修に励んでいます。「子どもの学びを広げ」「子どもが学ぶ喜び」を実現し、生徒の夢や憧れを達成できるように頑張っ

て参ります。保護者の皆様には、今回の取組に際して、「保護者向けパンフレット」や「端末貸与申請書兼同意書」などの配付・回収をさせていただきます。

ご理解とご協力をどうぞお願いいたします。



「端末貸与申請書兼同意書」の提出締め切り日は、**1月29日(金)**です。お忘れなくよろしくお願いします。

1月24日から「全国学校給食週間」

1月24日から30日は、「全国学校給食週間」です。「全国学校給食週間」は、学校給食の意義や役割についてたくさんの人に知ってもらい、これからの学校給食について考えてもらうことを目的としています。



日本での学校給食は、明治22年に山形県鶴岡町(現在の鶴岡市)の小学校で、家庭が貧しくてお弁当を持ってこれない子どもたちのために無料で食事を提供したことから始まったといわれています。その後、全国に広まり実施されるようになりましたが、第二次世界大戦による食料不足により中止せざるを得なくなりました。やがて戦争が終わり、昭和21年12月24日に東京、神奈川、千葉の3都県の学校で試験給食が実施されました。それ以来、12月24日を「学校給食感謝の日」と定めていましたが、冬休みと重なるため、1月24日から30日までの1週間を「全国学校給食週間」と決めました。

現在では、食べることが困難だったころから大きく変わり、偏った栄養摂取をはじめ生活習慣病の増加など、子どもたちの健康状態が心配されることから、バランスのよい食事のお手本として、学校給食は「生きた教材」の役割を担っています。

さあ、今日も感謝の思いをもって給食を残さずにいただきましょう！

「挑戦状」は解けたかな？？？

前号の「耕心」第42号で、「校長からの挑戦状」を出題しましたが、いかがでしたか？チャレンジしてみましたか？

残念ながら誰も解答に來ななかったので、少々寂しい思いがしています。解答は、問1の時差の問題は「第27回」(日付が違っただけで同じ問題です)、問2の頭のトレーニングは「第28回」に解答があります。どうぞ確認してください。せっかくなので、ここでもう1問出題します。同じく時差の難問です。解けるかな？



問：日本からアメリカ旅行に出かけた。飛行機は1月20日の14時45分に日本から東に向かって飛びたち、10時間かけてロサンゼルス(西経120度)に到着した。

さて、現地時間の何月何日の何時何分に到着したか計算しなさい。

いよいよ来週は私立高校入試本番です！頑張れ！「為せば成る、為さねば成らぬ何事も！」Fight！

